※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3015

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂　新数学Ａ　（東京書籍）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・ノートを用意してください。
・中学校までの内容や、基本的な問題にも取組みます。

２ 学習の到達目標

場合の数と確率についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率における数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	確認テスト 学習状況の観察等 ノート・プリント等の確認	学習状況の観察等 定期テスト 学習状況の観察等 ノート・プリント等の確認	定期テスト ノート・プリント等の確認 学習状況の観察等	定期テスト 学習状況の観察等 ノート・プリント等の確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	場合の数と確率	場合の数	集合	○	○	○		a:集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。 b:ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。 c:与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆・裏・対偶について真偽を証明したりすることができる。 d:集合に関する基本的な用語・記号を理解し、命題の必要条件・十分条件、逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
後期		順列と組合せ	順列	○	○	○	○	a:順列について関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。 b: 様々な順列について考察することができる。 c:様々な順列の違いについて調べることができる。 d 順列の特徴について理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等
			組み合わせ	○	○	○	○	a:組合せに関心をもち、具体的な事象の考察に組合せを活用しようとしている。 b:組合せについて、日常生活に照らし合わせて考察することができる。 c:組合せを用いて、道順等を求めることができる。 d:組み合せについてとその求め方について理解している。	

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　b：数学的な見方や考え方
c：数学的な技能　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。